

機関番号：32402

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20310149

研究課題名（和文）

近代国家の周縁の持つ多義性の研究

研究課題名（英文）

Multifaced Significance of Marginal Regions and Groups in the Formation of Modern State System

研究代表者

田村 愛理 (TAMURA AIRI)

東京国際大学・商学部・教授

研究者番号：50166584

研究成果の概要（和文）：

本研究は、近代国家の周縁とみなされていた集団や地域が有するインターフェイス的側面を近代史の中に捉え直そうとした。即ち政治的には統合対象としてしか把握されてこなかったマイノリティ集団や移民、経済的には国民経済から無視されていた辺境経済圏や流通における行商を研究対象とし、これらの集団や地域が国家内のマージナルな存在に留まらず、近代国家体制を越えるネットワークを持ち続け、その通国家間活動を通して国民国家／経済体制形成そのものに影響を与えていたことを学際的に検証した。

研究成果の概要（英文）：

The research project aimed to reposition interfacial aspects of marginal groups and regions in the context of modern history. The project focused on minorities and immigrants, which have politically simply been captured as subjects of national integration. It also put its attention on economies at border regions and peddlers, which were thought economically marginal. The project not only testified that these groups and regions were not always of marginal existence but it also proved that they often maintained networks which expanded beyond modern nation systems. Moreover, their transnational activities heavily influenced the formation of the nation states' and economic systems.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2009 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2010 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：文化人類学、地域研究

科研費の分科・細目：地域研究、地域研究

キーワード：地域研究、経済史、思想史、文化人類学、政治学

## 1. 研究開始当初の背景

社会科学の多くの研究分野において、国際問題や紛争、経済問題等を扱う際の枠組みは、既存の国家を自明の枠組みとすることは適切ではなくなると言われてから久しいにもかかわらず、未だに近代国民国家が主体であるのが現状である。世界システムの中で地球上のすべての地域が多かれ少なかれヨーロッパ型の国家形成を迫られ、そのプロセスに乗り遅れた地域は辺境化され、国境は厳然と地域を分割する壁となった。他方、一国内においてはマイノリティ（少数民族・集団）やマージナルな存在（周縁者）が構造化され、固定化されてきた。

本研究に関わる研究者達は、マイノリティ民族や移民、国境地帯などを研究対象として、地域研究や社会史、経済史などの分野から各自が独自にそれぞれ近代国民国家を相対化する視点を築いてきた。従来の各自の研究分野においては、これらの要素が国家の周縁に追い込まれていったプロセスについての若干の研究が散見されるのみであり、むしろ国内／国際間の異文化集団や地域は紛争要因としてそれらの否定的な側面が強調されてきた。また逆に、周縁＝マージナルな側に立った研究では、ないがしろにされた歴史的境遇に対するシンパシーや、政治的名誉回復のイデオロギー性を帯びる傾きがあった。

本研究の研究者達は、研究対象を特殊でマージナルな存在として捉えるのではなく、またグローバリゼーションとローカリティを対立概念として設定するのではなく、人類史上に普遍的な多文化共生的な社会的結合関係創出の一環として、ポジティブに捉えるための視点を提供できることを目指して当研究グループを形成した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、当為理念としての国民国家、国民経済によって構造的に周縁化されてきた人や地域の存在に焦点を合わせ、後者へのまなざしを通じて近代への問い直しをおこなうことである。近代国家により構造化された辺境、民族、文化、慣習・習俗研究へのアプローチの仕方として、従来はそれらの否定的な側面を強調する傾きがあったが、本研究は、むしろ辺境に位置する地域や人には、逆に他国・他者と自国・同胞とをつなぐ相互浸透＝インターフェイス的な側面をもつことがあることに着目する。すなわち、本研究は、辺境に固有のポジティブな側面を近代史の中に捉え直し、一定の普遍性を抽出しようとするものである。

## 3. 研究の方法

本研究に関わる研究者達は、マイノリティ民族や移民、国境地帯などを研究対象として、地域研究や社会史、経済史などの分野からそれぞれ近代国民国家を相対化する研究視点を築いてきた。具体的には、マイノリティ集団・辺境地域・移民を研究対象とし、地域的には、日本を始めとして欧米・中東諸地域の諸事例を加えて研究対象を広げ、方法論的には歴史学、文化人類学、政治学、社会学等による学際的な比較研究を行なった。また、研究グループではカバーしきれない地域・対象に対しては、外部者の講演を依頼して比較対象の範囲を拡げた。

## 4. 研究成果

研究代表者の田村は、中東のユダヤ教徒共同体のインターフェイス的役割に注目し、その固定的普遍的な側面ではなく、流動的地域的側面とイスラームとの文化混成に与えた役割を研究した。川名は、巨大な政治的アマルガムとしての分割前のポーランド国家における諸民族、諸宗派の内部構造を研究し、宗教改革期の辺境における寛容に注目した。内田は、フランスのドイツ・スイス国境地域における、18世紀の市場や密貿易に焦点をあて、この地域が各国の国民経済形成期に有したインターフェイス的役割を研究した。泉は、現代米国におけるムスリム移民による政治参加が、どのように米国の国内政治と出身地域への対外政策に関連づけられたのか、その相互作用を分析した。杉浦と小林は、18世紀のオランダと日本の街売りの経済行動を比較実証し、従来無視されてきたその経済活動を流通構造史の中に位置づけた。尾崎は、スイス辺境における産業が国境を越えてフランスのサヴォア地方に浸潤するフリーゾンの様態についてまとめた。斎藤は、日本の近世部落経済の経済的ネットワーク構造を研究し、近世経済における差別と特権の二重構造に注目した。

これらの研究成果は、周縁の果たすインターフェイス的役割解明の一助として論文集として出版することを予定している。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計9件)

1. 尾崎麻弥子「スイス・フランス国境地域と第一次大戦」、『國學院大學紀要』、査読有り、49巻、2011年、1-16頁。
2. 内田日出海「近世フランスにおける王税と都市財政—ストラスブールの事例—」、『成蹊大学経済学部論集』、査読無し、41-2巻、2010年、153-167頁。
3. Sugiura Miki, "Groothandel' versus 'kleinhandel'? reconsidering the development of merchants' divisions of functions in Amsterdam, 1580-1750". "The Journal of Tokyo International University. The School of Economics", 査読無し, Vol. 43, 2010, pp. 45-59
4. 尾崎麻弥子「第二次大戦期におけるスイス・フランス国境地域—国境のコントロールが国境館の移動におよぼした影響について」、『國學院経済学』、査読有り、59巻1号、2010年、85-103頁。
5. 川名隆史「ジェチポスポリタのタタール人」、『東京国際大学論叢経済学部編』、査読無し、42巻、2010年、31-40頁。
6. 内田日出海「国境と歴史的アイデンティティ—ストラスブールの場合—」、『成蹊大学経済学部論集』、査読無し、40-2巻、2009、121-139頁。
7. Sugiura Miki, "Handelsmetropolen und Warendistribution im Binnenland, Kaufmannische Funktionsaufteilungen und Spezialisierung in den Niederlanden des 18. Jahrhunderts", "Hamburger Wirtschafts-Chronik", 査読無し, Neue Folge Bd. 7, 2008, SS. 151-188.
8. Sugiura Miki, "Middleman Approach. Rethinking Analytical Framework for the Early Modern Distribution System", "The Journal of Tokyo International University. The School of Economics", 査読無し, Vol. 39, 2008, pp. 175-195.
9. 泉 淳「米国ムスリムと2004年大統領選挙(後編)」、『東京国際大学論叢経済学部編』、査読無し、38号、2008年、117-171頁。

〔学会発表〕(計2件)

1. Sugiura Miki & Kobayashi Shinya, "Street

Sellers and Street Markets of Early Modern Edo". XVth World Economic History Congress, August 2009, Utrecht, The Netherlands.

2. 田村愛理「イスラームの民間信仰からみた他者受容のメカニズム—ジェルバ島の漂着聖女」、史学会第106回大会(東京大学)、2008年。

〔図書〕(計7件)

1. 尾崎麻弥子「近代スイスの時計産業と部品製造業—18・19世紀のジュネーヴと周辺地域の事例」、『スイス史研究の新地平—都市・農村・国家』(踊共二・岩井隆夫編)、昭和堂、2011年、96-119頁。
2. 田村愛理「チュニジアの聖女信仰にみる自己発現」、『グローバル世紀への挑戦:文明再生の知恵』(片岡幸彦他編)、文理閣、2010年、58-72頁。
3. 田村愛理「漂着聖女信仰とユダヤ教徒:チュニジア、ジェルバ島の事例から」、『ユーラシア諸宗教の関係史論:他者の受容、他者の排除』(深沢克己編)、勉誠出版、2010年、201-233頁。
4. 内田日出海「市場史に見るフランスの近代化」、『伝統ヨーロッパとその周辺の市場の歴史』(山田雅彦編)、清文堂、2010年、199-234頁。
5. 内田日出海『物語ストラスブールの歴史—国家の辺境、ヨーロッパの中核』、中央公論新社、2009年、320頁。
6. 内田日出海「都市共和国ストラスブールにおける王権と自治の領分—対立から融合へ(1681-1790年)」、『地域間の歴史世界—移動・衝突・融合』(鈴木健夫編)、早稲田大学出版部、2008年、127-171頁。
7. 田村愛理「エル・グリーバ:ジェルバ島の漂着聖女信仰にみる共生構造」、『地域間の歴史世界—移動・衝突・融合』(鈴木健夫編)、早稲田大学出版部、2008年、194-230頁。

〔その他〕

ホームページ等  
<http://members3.jcom.home.ne.jp/thaddaios/>

講座コーディネイト

田村愛理:国際交流基金・異文化理解講座「国

境を越える人々」、2008年10～11月。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田村 愛理 (TAMURA AIRI)  
東京国際大学・商学部・教授  
研究者番号：50166584

### (2) 研究分担者

川名 隆史 (KAWANA TAKASHI)  
東京国際大学・経済学部・教授  
研究者番号：60169737

内田 日出海 (UCHIDA HIDE MI)  
成蹊大学・経済学部・教授  
研究者番号：90223560

泉 淳 (IZUMI ATSUSHI)  
東京国際大学・経済学部・准教授  
研究者番号：70337476

杉浦 未樹 (SUGIURA MIKI)  
東京国際大学・経済学部・准教授  
研究者番号：30438783

### (3) 連携研究者

### (4) 研究協力者

斉藤 洋一 (SAITO YOICHI)  
佐久市五郎兵衛記念館・専門員

小林 信也 (KOBAYASHI SHINYA)  
東京国際大学・商学部・非常勤講師

尾崎 麻弥子 (OZAKI MAYAKO)  
國學院大學・経済学部・助教  
研究者番号：50434212